ちょっと名大史

192

仮病院から医学部附属病院へ ― 名称の変遷 ―

名大病院の通称でも知られる名古屋大学医学部附属病院は、その歴史をたどると、名古屋大学の創基とされる1871(明治4)年設置の名古屋県仮病院・仮医学校にまでさかのぼることができます。「仮病院・仮医学校」という名称からも分かるように、当初はむしろ病院が本体で、医学校はその附属施設でした。

1878(明治11)年に公立医学所が公立医学校と改称された際、医学校が「愛知県公立病院」から独立し、病院と併立する機関になりました。1881年に病院が「愛知病院」と改称され、この名称が長く続きます。1903年には、医学校が愛知県立医学専門学校（愛知医専）になりますが、病院の名称は愛知病院のままでした。

1920(大正9)年、愛知医専の県立愛知医科大学への昇格を受けて、愛知病院は1922年に「愛知医科大学病院」と改称されました。そして、1924年の公立学校職員制の改正に伴い、初めて学則に附属医院の設置が明記されて、「愛知医科大学附属医院」が設置されました。ここで病院が大学の附属施設となったのです。

その後、1931(昭和6)年に愛知医科大学が官立移管されて名古屋医科大学になるに伴い、「名古屋医科大学附属医院」に、1939年に名古屋医科大学が名古屋帝国大学医学部になるに伴い、「名古屋帝国大学医学部附属医院」になりました。当時、官公立大学の附属病院の名称は「附属医院」とされていました。

敗戦後、1947年10月に名古屋帝国大学が名古屋大学（旧制）と改称されますが、帝国大学官制を改称した国立総合大学官制には依然として「附属医院」とあったため、名称は「名古屋大学医学部附属医院」でした。

1949年5月に新制名古屋大学が設置されます。その根拠法である国立学校設置法の施行規則は、医学部に「附属病院」を置くとしていました。これにより、現在の「名古屋大学医学部附属病院」となったのです。

1　愛知医学校・愛知病院正門。2つの門柱に、それぞれ「愛知病院」と「愛知医学校」の標札が掲げられている。当時は天王崎（名古屋市中区栄1丁目）にあった。
2　現在の名古屋大学医学部附属病院病棟前に復元保存されている、1914年に学校・病院が鶴舞へ移転した際に建てられた病院正門の遺構（国の登録有形文化財）。
3　愛知医科大学附属医院の外来診療所（1927年）。この建物は空襲でも焼失せず、1970年代初めまで使われていた。
4　愛知医科大学附属医院内の薬局。
5　名古屋医科大学附属医院の病棟。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む

NAGOYA UNIVERSITY プロジェクト NU MIRAI

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金　名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

工学　ベンチャー　青色LED　医学未来人材　アジア法律家　病院　女性リーダー　図書館　経済100周年　修学支援　ジェンダー　農学　保健医療リーダー　ITbM　附属学校　創薬　PhD登龍門　理学

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。
詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金　http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/　アクセスはこちらから▶